

## 2013連合北方領土返還要求集会

# 「絆」全国の仲間と共に「一番近い納沙布岬」で訴え、誓い合う！

## ～連合福島派遣団として12名が参加～



四島のかげ橋の前にて、連合福島派遣団12名の皆さん帰還できるその日を信じ、願っていることを学んだ。そしてこの運動自体、連合が主導的にロシアや政府に向かって起こしている、大きな国民運動であることを改めて実感し、連合が頼りにされていることを知った。

戦後68年たった今、この日の天候の様子にすぐそこにある島が見えない。文字通り「近くて遠い我が国固有の北方四島、私たちの北方領土を取り戻さなければ、本当の戦後は終わらない」のだと強く感じた。全ての参加者がこの歴史と問題を、地域や職場の中で語り部となって伝えて行くことを確認し、帰

連合は、9月14日～15日にかけて北海道の根室の地において「2013連合北方領土返還要求集会」を開催した。今回の連合福島の派遣団には各構成組織及び各地区連合から参加協力を頂き、連合福島・笠井副会長（自動車総連）を団長に、12名での参加をもって役割を果たしてきた。

集会当日は、霧の立ち込めるあいにくの天候で、島を望むことはできなかったものの、前日の研修の場を含め、強制的に故郷を奪われた17,000余名の元島民の方々が、



路についた。霧雨降りしきる中ゼッケンを胸にガンバロー三唱

帰路最終日の16日は、台風18号の直撃を受け、千歳発の全便が欠航となり、足止めされるアクシデントに見舞われた。何とか一日遅れの最終便で無事仙台空港に帰って来ることが出来たが、自宅には24時を過ぎてから着かれた方もおられたと思う。

しかし、天候によるアクシデントの中でも、みんなが一つになって行動できたのは、笠井団長の名采配は当然ながら、何よりも全ての団員の「連合福島チーム志向」のお蔭であり、心より感謝を申し上げたいと思う。

(参加後記：派遣団事務局 遠藤徳雄)



研修会場の北方四島交流センターの前にて